琉球大学学術リポジトリ

ロシア連邦サハリン州ユジノサハリンスク市の小学校

メタデータ	言語:
	出版者: 琉球大学教育学部
	公開日: 2012-12-28
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 小林, 稔, 立石, 庸一, 副島, 健作, KOBAYASHI, Minoru, TATEISHI, Yoichi, SOEJIMA, Kensaku
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/25618

ロシア連邦サハリン州ユジノサハリンスク市の小学校

小林稔[1,2]・立石庸一[3]・副島健作[4,5]

Current Conditions of Primary Schools in Yuzhno-Sakhalinsk, Sahalin, Russian Federation

Minoru KOBAYASHI[1,2], Yoichi TATEISHI[3] and Kensaku SOEJIMA[4,5]

Abstract

Primary Schools in Yuzhno-Sakhalinsk, Russian Federation were observed as a part of studies on development of an Educational Leadership Model by the Implementation on Practice Schools carried out by the University of the Ryukyus. The current conditions of the primary schools and the educational administration in Yuzhno-Sakhalinsk and the evaluation systems and the training systems for teachers of the primary schools in Russian Federation were examined.

はじめに

琉球大学では質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）の採択を受け、2008年度より３年間、「模擬学校（プラクティススクール）による教育実践力向上モデルの開発」を推進した（小林ら, 2009; 小林・中村, 2011）。これは、教員養成段階における教員に必須な資質能力の育成に関する提案を目的の一つとしている。そのために、アジアの近隣諸国や欧米など各国における教員あるいは教員候補生の資質能力に対する考え方や職能基準がどうあるのか現状を捉えるため、現地調査を行った（琉球大学教育学部試行実施部会（編）, 2009）。これにより各国の学校教育現場の実情や調査で得られた資料を参考に本大学の卒業直前段階の評価規準等を検討することもできる。ここでは、その調査地の一つロシア連邦サハリン州での調査結果について報告する。

調査日程

2009年11月10日午前に那覇を立ち、同日深夜ユジノサハリンスク着。翌11日からの4日間市内の教育施設を訪問し、ロシアにおける義務教育学校の教員評価や研修を中心に聞き取り調査を行うとともに施設や授業の参観を行い、14日に帰国した。正味4日間と甚だ短い期間ではあったが、サハリン国立大学総合大学副学長のV.I. Korsunov教授の適切な配慮により極めて順調かつ濃密に調査を行うことができた。以下に調査対象機関と調査項目を列記する。

11月11日（水）

1）ユジノサハリンスク市第7番初等普通教育学校訪問

E.A. Fyodorova校長及びM.M. Nikitina副校長の案内で構内視察をしながら、４年情報（１時

[1] 琉球大学教育学部教育実践総合センター Center for Educational Research and Development, Faculty of Education, University of the Ryukyus
[2] 現：京都教育大学教育支援センター Educational Support Center, Kyoto University of Education
[3] 琉球大学教育学部自然環境科学教育コース Natural Environment Science Education Course, Faculty of Education, University of the Ryukyus. 903-0213 沖縄県西原町千原1番地 (mame@edu.u-ryukyu.ac.jp)
[4] 琉球大学留学生センター International Student Center, University of the Ryukyus
[5] 現：東北大学高等教育開発推進センター Center for the Advancement of Higher Education, Tohoku University

間目）、1年数学（2時間目）、4年ロシア語（3時間目）など午前の授業を参観

2）サハリン国立大学総合大学訪問

副学長V.I. Korsunov教授と懇談

3）同学教育学部訪問

教育学部長M.A. Romanova准教授およびL.V. Shatunova教授、A.I. Savinkovモスクワ市立教員育成大学教授らからロシアの教員養成について聞き取り

11月12日（木）

1）プーシキン記念人文科学ギムナジウム訪問

1年ロシア語、4年算数の授業を参観の後、L.N. Rumyantseva初等学校副校長から主として学校の運営および健康教育について聞き取り

2）サハリン国立大学総合大学教育学部再訪

教育学部長M.A. Romanova准教授の講義（数学教育法）の参観

3）ユジノサハリンスク市行政教育部訪問

V.N. Beloglazova副部長から市の教育行政について聞き取り

11月13日（金）

1）サハリン国立大学総合大学経済東洋学部訪問

2）ユジノサハリンスク市第7番初等普通教育学校再訪

午後の3年音楽（1時間目）、3年英語（2時間目）、2年造形芸術（3時間目）の授業参観の後、E.A. Fyodorova校長およびM.M. Nikitina副校長から学校の運営および教員評価について聞き取り

11月14日（土）

1）サハリン州郷土博物館参観

ロシアの学校制度

ロシアの教育制度は、日本の小学校低学年にあたる初等教育が4年（1～4学年）、小学校高学年と中学校にあたる基礎普通教育が5年（5～9学年）、および高等学校にあたる中等普通教育が2年（10・11学年）、さらに大学が現在5年制であるが、近年、4年制への移行の動きが活発とのことであった。義務教育は基礎普通教育までの9年間だが、その後の2年間（中等普通教育）を含めた11年間を一貫教育する学校（通称「完全中等普通教育学校」）が都市部には多い。

初等中等普通学校は公立がほとんどで、学校は番号で示されている。例えば我々が訪れたユジノサハリンスク市立第7番初等普通教育学校というように。ちなみにこの学校はユジノサハリンスクで唯一の初等教育のみの学校である。またいわゆる英才教育を目指した学校もあり、理系の英才児のための学校は「リツェイ」と呼ばれ、文系の英才教育学校は「ギムナジウム」と呼ばれる。我々はその一つのプーシキン記念人文科学ギムナジウムの初等学校を訪れた。国公立の初等中等普通教育学校のうち約15％がこうした英才教育学校で、ロシア全児童生徒の約13％がこれらに在籍しているという。さらにソ連時代からの伝統で、数学・物理、外国語、芸術、体育など特定の教科を深く学ぶ国公立の初等中等普通教育学校もある。また、1992年制定のロシア連邦法「教育について」により私立学校が正式に制度化され、個人や宗教団体などが経営する私学もまだ多くはないが設立され、特色ある教育を進めているという。国公立学校は無償だが、私立学校は有料である。

就学年齢は、従来6歳または7歳とされ、そのため初等教育は6歳入学の場合は4年制、7歳入学の場合は3年制となる二本立てとなっていたが、2002年の連邦法の改正により初等普通教育の開始年齢を6歳6カ月に達した時からと定められた。ただし、8歳までの間であれば入学を遅らせることができ、また、6歳6カ月以前の入学を保護者が希望し学校の設置者が認めればそれも可能としている。

学校年度は9月1日（知識の日）に始まり8月31日に終わる。したがってその年の8月31日までに満6歳6カ月になる子どもがその年の9月1日に初等学校の1年に入学ということになる。1年間の学年歴は、「普通教育機関標準規程」に沿って学校ごとに定め、所轄の教育行政機関の承認を得ることになっている。規程では、第1学年は33週以上、第2学年以上は34週以上と定められている。また、学年度中の休業日は30暦日以上、夏季休業は8週以上としなければならない。

週5日制にするか6日制にするかは、学年歴とともにそれぞれの学校で定め、所轄の地方教育行政機関の承認を得ることになっているが、1学年

に限っては全国一律に週５日制とするように決められている。このため同じ学校でも１学年だけが週５日制となっている学校が多い。さらに1授業時間は１学年が35分、２～４学年が35～45分、５～９学年は45分と定められている。

ロシア語を教授言語とする学校用の基本教科課程のうち初等教育および基礎教育段階（１～９学年）を表1に示す。国語である「ロシア語」の時数が最も多い。次いで「文学的読み方（文学読本）」中等教育段階での「文学」が「数学」とともに時数が多く、全学年を通じてほぼ毎日授業が組まれている。とくに「文学的読み方」は、ロシア語を教授言語とする学校と非ロシア語（母語）を教授言語とする学校とで時数は異なるが、初等教育段階での基幹の教科の一つである。ロシア語を教授言語とする学校における「文学的読み方」の教育目標として、ロシアの指導要領にあたる「初等教育スタンダード」には次のように定められている（澤野, 2006a,b）。

①芸術的・創造的能力および知的能力、文学作品を読む際の感受性の発達、言葉の芸術に対する美的観点の形成；あらゆる種類の言語活動、対話を行い、表現豊かに読み話し、即興的に作品を作る能力を向上させること。

②低学年の児童の教育システムの基礎としての、意識的で正しい、速読ならびに表現豊かな読み方の技能の習得；読者としての見識を形成し自主的読書活動の経験を身につけること。

③読書と本に対する興味や芸術的文学の世界とのまじわりに対する欲求を育むこと；低学年の児童の道徳的経験を豊かにし、善と悪、正義と誠実の概念を形成すること；道徳的感情、多民族社会ロシアの諸民族の文化に対する敬意を発達させること。

さらに、児童に「読者としての自主性」を培うことが最終的な目標とされている（澤野, 2006a,b）生活科にほぼあたる「まわりの世界（人間、自然、社会）」が、初等教育4年間を通して当てられていることも特色の一つである。

視察内容

Ｉ）ユジノサハリンスク市立第7番初等普通教育学校

ロシアでは初等・基礎・中等教育一貫の学校が多いが、ユジノサハリンスク市でもこの学校だけ初等教育のみである。しかし、市内でも評価の高い学校の一つであり、ロシアで1,000校程ある指導的教育機関の一つに指定されている。全ロシアの小学生が参加するコンクールで1位の児童を輩出しており、「私は研究者」全ロシアコンクールで２年連続優勝した女子児童もいるとFyodorova校長は力説されていた。また、国立サハリン総合大学教育学部と緊密に交流を行っており、大学から教育実習生を受け入れたり、新しい教育方法などを導入したりしている。さらに同大学および他の1大学と共同で新教育法の研究も行っている。

児童数は全校で660人、24クラス（1年７クラス、２年６クラス、３年６クラス、４年５クラス）に分かれている。1クラス24～30人である。教員は32名、専科として英語３、音楽１、情報２、体育２名がいる。クラスの担任はいるが、教科はそれぞれ専門を教える。教員は全員女性だが、これはこの学校だけのことではなく、ロシアの初等学校教員の99％が女性である。しかも学級担任は１年生から４年生までの持ち上がりなので、初等学校の担任はロシアでは「第二の母」と呼ばれるのだという。

表２にこの学校の2009/10年度の時間割を示した。午前と午後の２部制をとっており、午前が1学年と４学年、午後が２・３学年と、学年によって分けられている。全学年とも週５日制をとっていて、さらに１授業時間も1学年に合わせ全学年35分としている。

始業は８時30分で、１学年は４時間、２学年以上は５時間の授業である。２時間授業すると食事休憩が入り、食堂で軽い食事を摂る（図１Ａ）。私達が参観した日のメニューはチーズ入りのマカロニ、黒パン、ゆで卵、飲み物などであった。食事のあと一年生は担任と一緒に校舎の外に出て付近を散歩したり遊んだりする。４年生は食後３時間の授業があり、12時20分に日課が終了する。午後は２・３学年用で、１時20分から開始し、両

表1. ロシア語を教授言語とする学校用の基本教科課程（初等教育および基礎教育段階）（澤野, 2006cから抜粋）

教　　科	学年別年間総授業時数								
	初等普通教育				中等普通教育				
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ロシア語	99	102	102	102	105	105	105	105	105
文学的読み方（文学読本）	99	102	102	102					
文　学					70	70	70	70	70
母語・文学*	99	102	102	102	210	210	175	105	105
外国語		68	68	68	105	105	105	105	105
数　学	132	136	136	136	175	175	175	175	175
まわりの世界（人間、自然、社会）	66	68	68	68					
情報学・情報コミュニケーション								35	70
歴　史					70	70	70	70	70
社会科（経済・法律含む）						35	35	35	35
地　理						35	70	70	70
博物学					70				
物　理							70	70	70
化　学								70	70
生　物						35	70	70	70
芸術（音楽、造形芸術）	66	68	68	68	70	70	70	35	35
テクノロジー（労働）	33	34	68	68	70	70	70	35	
生活安全の基礎								35	
体　育	66	68	68	68	70	70	70	70	70
合　　計	561	646	680	680	805	840	980	1,050	1,015
地方（民族・地域）・学校構成要素（週６日制）	-	204	170	170	280	280	210	175	210
週６日制の場合の授業負担の上限	-	850	850	850	1,085	1,120	1,190	1,225	1,225
地方（民族・地域）・学校構成要素（週５日制）	99	102	68	68	175	175	105	70	105
週５日制の場合の授業負担の上限	660	748	748	748	980	1,015	1,085	1,120	1,120

*「母語・文学」の授業時数は、地方・学校構成要素の授業時数に組み込まれる。
（資料）2004年3月5日付ロシア教育省令第1089号「初等、基礎、中等（完全）普通教育国家スタンダード連邦構成要素の承認について」

学年とも２時間目の終了後に入る昼食をはさんで５時間の授業を受け、５時過ぎに終了する。

数学の授業は朝の１時間目に開設してはいけないなど、授業スケジュールについての衛生法による規制もある。我々は午前2時限目の１年生の数学の授業を参観した。

曲線と直線を組み合わせた模様や数字を上手に書くトレーニングをさせたり、3つ程の数字を並べて大きい順に並べさせたり、1つ1つの課題にあまり長い時間かけ続けることを避け、５～10分で一つの課題に区切りをつけると、皆で声を出しながら体を動かすことをさせて、35分間を上手に授業に集中させる努力が見られた。

Ａ／Ｅ＝４　Ｍ／Ｅ＝７　　ＡＯＭ
Ａ／Ｅ＝３　Ｍ／Ｅ＝２　　ＡＯＭ
Ｍ／Ｋ＝４　Ａ／Ｋ＝４　　ＭＯＡ

また、

Ａ／Ｅ＝４　Ａ／Ｋ＝７　　ＥＯＫ
Ａ／Ｅ＝４　Ｍ／Ｋ＝４　　ＡＯＭ

の○に＝＞＜のどの記号が入るのか等を考えるなど、入学してまだ2か月ほどの子どもたちがかなり高度な課題に集中しているのに驚かされた。

第7番初等普通教育学校の教科ごとの週当たりの授業時数を表３に示した。外国語は２学年から始まる。この学校では全て英語で、クラスを12～15名の２グループに分けて授業している。これは会話中心の授業展開のために「初等教育スタンダード」で奨励されていることである。２学年から４学年まで週２時間だが、各学年とも１時間分は２グループとも英語を並行して受講し、もう１時間分は情報と並行している。情報室のパソコンの台数が少ないためだそうだ（図１B）。我々は３年生の英語の授業（図１C）を参観したが、ロシア人教員が授業開始の挨拶から質問や個別の指導までほとんど英語で子どもたちに話しかけていた。授業内容は会話中心で、教科書にある誕生日を話

表２．ユジノサハリンスク市立第７番初等普通学校の2009/10年度の授業時間割

（午前）

曜日	時限	１学年							４学年				
		1A	1B	1C	1D	1E	1F	1G	4A	4B	4C	4D	4E
月	1	文学読本*	ロシア語	ロシア語	体育	文学読本	文学読本	文学読本	文学読本	ロシア語	ロシア語	ロシア語	ロシア語
	2	ロシア語	数学	体育	ロシア語	ロシア語	ロシア語	ロシア語	ロシア語	数学	数学	数学	数学
	3	数学	体育	数学	数学	数学	数学	数学	数学	体育	文学読本	文学読本	文学読本
	4	体育	文学読本	まわり**	文学読本	まわり	まわり	まわり	まわり	まわり	まわり	まわり	まわり
	5								労働	文学読本	労働	音楽	労働
火	1	文学読本	ロシア語	ロシア語	音楽	文学読本	ロシア語	ロシア語	ロシア語	英語/情報***	英語/英語	体育	ロシア語
	2	ロシア語	数学	音楽	ロシア語	ロシア語	数学	体育	数学	情報/英語	数学	英語/英語	数学
	3	数学	音楽	数学	数学	数学	体育	数学	英語/情報	数学	体育	ロシア語	英語/英語
	4	音楽	文学読本	文学読本	まわり	体育	文学読本	文学読本	情報/英語	ロシア語	ロシア語	数学	文学読本
	5								造形芸術	造形芸術	文学読本	文学読本	労働
水	1	体育	ロシア語	ロシア語	文学読本	文学読本	文学読本	文学読本	ロシア語	ロシア語	英語/情報	ロシア語	ロシア語
	2	ロシア語	体育	数学	ロシア語	ロシア語	ロシア語	ロシア語	数学	数学	情報/英語	数学	数学
	3	数学	数学	体育	数学	数学	数学	数学	文学読本	文学読本	数学	体育	英語/情報
	4	まわり	まわり	文学読本	体育	造形芸術	造形芸術	造形芸術	音楽	労働	ロシア語	文学読本	情報/英語
	5								労働	音楽	造形芸術	労働	造形芸術
木	1	文学読本	ロシア語	文学読本	文学読本	音楽	ロシア語	文学読本	ロシア語	ロシア語	体育	英語/情報	ロシア語
	2	ロシア語	文学読本	ロシア語	ロシア語	文学読本	音楽	ロシア語	英語/英語	数学	数学	情報/英語	体育
	3	まわり	まわり	まわり	まわり	ロシア語	文学読本	音楽	体育	英語/英語	音楽	数学	数学
	4	造形芸術	造形芸術	造形芸術	造形芸術	まわり	まわり	まわり	数学	体育	ロシア語	ロシア語	文学読本
	5								文学読本	文学読本	文学読本	造形芸術	音楽
金	1	ロシア語	ロシア語	文学読本	文学読本	体育	ロシア語	ロシア語	ロシア語	ロシア語	ロシア語	ロシア語	ロシア語
	2	文学読本	数学	ロシア語	ロシア語	ロシア語	体育	数学	数学	数学	数学	数学	数学
	3	数学	文学読本	数学	数学	数学	数学	体育	体育	文学読本	文学読本	文学読本	文学読本
	4	労働	労働	労働	労働	労働	労働	労働	まわり	まわり	まわり	まわり	まわり
	5								文学読本	労働	労働	労働	体育

（午後）

曜日	時限	１学年						３学年					
		2A	2B	2C	2D	2E	2F	3A	3B	3C	3D	3E	3F
月	1	体育	数学	ロシア語	ロシア語	ロシア語	ロシア語	ロシア語	音楽	英語/情報	ロシア語	英語/英語	ロシア語
	2	ロシア語	体育	数学	数学	数学	数学	音楽	数学	情報/英語	英語/英語	ロシア語	数学
	3	数学	ロシア語	体育	文学読本	英語/英語	音楽	数学	ロシア語	数学	数学	数学	情報/英語
	4	文学読本	文学読本	文学読本	体育	文学読本	文学読本	英語/英語	文学読本	ロシア語	文学読本	音楽	文学読本
	5	音楽	労働	まわり	まわり	体育	英語/英語	まわり	まわり	まわり	まわり	文学読本	労働
火	1	ロシア語	英語/英語	ロシア語	ロシア語	ロシア語	体育	ロシア語	英語/情報	ロシア語	ロシア語	ロシア語	ロシア語
	2	数学	数学	数学	数学	数学	ロシア語	体育	情報/英語	数学	数学	数学	数学
	3	文学読本	ロシア語	文学読本	英語/英語	文学読本	数学	数学	数学	体育	文学読本	文学読本	文学読本
	4	まわり	まわり	英語/英語	文学読本	まわり	文学読本	文学読本	ロシア語	文学読本	体育	まわり	まわり
	5	労働	文学読本	労働	労働	労働	まわり	労働	労働	労働	労働	労働	体育
水	1	英語/英語	ロシア語	ロシア語	体育	ロシア語	ロシア語	英語/情報	ロシア語	ロシア語	音楽	ロシア語	ロシア語
	2	数学	数学	数学	数学	体育	数学	情報/英語	数学	数学	数学	数学	音楽
	3	ロシア語	文学読本	ロシア語	ロシア語	数学	文学読本	数学	体育	文学読本	ロシア語	文学読本	数学
	4	文学読本	ロシア語	体育	文学読本	ロシア語	ロシア語	ロシア語	文学読本	英語/英語	文学読本	まわり	文学読本
	5	ロシア語	体育	文学読本	まわり	文学読本	英語/英語	文学読本	造形芸術	造形芸術	造形芸術	造形芸術	造形芸術
木	1	ロシア語	ロシア語	英語/英語	ロシア語	ロシア語	ロシア語	ロシア語	ロシア語	数学	英語/情報	体育	ロシア語
	2	数学	数学	数学	数学	数学	数学	数学	数学	体育	情報/英語	ロシア語	数学
	3	文学読本	文学読本	ロシア語	ロシア語	文学読本	文学読本	体育	英語/英語	ロシア語	数学	数学	英語/情報
	4	まわり	まわり	文学読本	英語/英語	まわり	体育	文学読本	文学読本	文学読本	ロシア語	文学読本	文学読本
	5	体育	造形芸術	まわり	文学読本	造形芸術	労働	造形芸術	まわり	まわり	まわり	労働	まわり
金	1	ロシア語	ロシア語	音楽	ロシア語	ロシア語	ロシア語	ロシア語	体育	ロシア語	ロシア語	英語/情報	英語/英語
	2	数学	数学	ロシア語	音楽	数学	数学	数学	数学	数学	体育	情報/英語	数学
	3	英語/英語	文学読本	数学	数学	音楽	文学読本	文学読本	ロシア語	文学読本	数学	数学	体育
	4	文学読本	英語/英語	文学読本	文学読本	文学読本	まわり	まわり	文学読本	音楽	文学読本	体育	ロシア語
	5	造形芸術	音楽	造形芸術	造形芸術	英語/英語	造形芸術	労働	労働	労働	労働	ロシア語	労働

*文学読本： 文学的読み方
**まわり： まわりの世界（人間，自然，社会）
***英語／情報： クラスを２分割し、英語と情報の授業を並行して行う．

題とした会話を隣同士でしたり、ワークブックにあるバースデイカードに言葉を入れて完成させたり、実践的な内容が多いように思われる。… “Please come to my birthday party.” “Thank you Katya. What would you like for your birthday?” …

授業スケジュールの他にも建物の階層（３階まで）、校舎内の照明、机の高さ、服を置く場所などに衛生法の規程がある。また、それぞれの授業の中間で子どもたちを立たせ、上体や腕を動かす

図１．サハリンの学校調査．A～D：ユジノサハリンスク市立7番初等普通教育学校．A：2時限の授業後に入る食事休憩時間に食堂で軽い食事をとる子どもたち．B：情報室で行われる4年生の情報の授業．C：３年生の英語の授業．D：設備の整った歯科室．E：プーシキン記念人文科学ギムナジウム初等学校の４年数学の授業．F：サハリン国立大学総合大学教育学部での懇談．右からM.A. Romanova 教育学部長、V.I. Korsunov副学長、左端が小林.

等の運動をさせるなど、健康と集中力の維持への配慮が窺えた。また校舎内には設備も充実した歯科室があって、歯科医と助手の歯科学生が一人ずつ常駐している（図１D）。彼らは子ども一人ひとりの歯を入学時に検査し、状態に応じてその後定期的に検査を行い、必要に応じて治療を施す。また状態によっては専門の歯科医に治療を委ねることもある。

2）プーシキン記念人文科学ギムナジウム初等学校

このギムナジウムは、ペレストロイカ中の1990年に設立された、初等・基礎・中等教育一貫校である。外国語重視が特徴で、初等教育の１学年から英語が必修で、５学年からフランス語が必修に加わり、韓国語選択可能になる。さらに中等教育段階の10学年からドイツ語が必修になり、日本語選択可能になる。これに最近中国語が加わった。しかし、韓国語、日本語の教員のあまりいないことが問題という。

児童・生徒数は、設立当初500～600人だったが、希望者が多く1995年に幼稚園の建物に初等学校が移転して現在にいたっている。初等学校は、現在入学試験は行っておらず、学区内の希望者はすべて受け入れている。一方、基礎学校には入試があり、英語、ロシア語、数学を課している。現在の児童・生徒数約1,000人、うち初等学校は481人である。初等学校は1年から５、４、４、５クラスあり、全体で18クラスとなる。１クラスの児童数は25～28人である。

授業開始は午前9時。1授業時間は45分である。健康を重視した教育に配慮して、９時の授業開始前５分間を朝の体操にあて、また３時限の後には必ず散歩をさせている。毎月、運動祭りを催し、その際に父兄も交えて健康的なライフスタイルを薦めている。

研究を重視した学習に力を入れており、子どもに考えさせ自ら答えを見つけることを学ばせるようにしている。これにより自分自身で学ぶ方法を身につけさせている。その結果、様々なコンクールで優勝するなど子どもの質は高いという。また、子どもには授業のたびにどこまで分かったか等必ず自己評価させる。その評価の方法や基準は教科や授業ごとに工夫されている。もちろん教員も子どもを評価（相対評価）している。

初等学校の教員は現在26人．初任者の給与500ドル、研究活動をやっている人には15％プラスされる。サークル活動をやっている人には問題がなければ20％プラスされ、最高1000ドルとっている教員もいるという。コンクールでの優勝などには報奨金もある。

上記のようにこの学校では子どもの健康を特に重視しており、授業の方法にも健康科学理論が取り入れられている。そのため授業評価もロシアの学校で一般に用いられている評価基準に健康科学理論を取り入れたルーブリックを、評価を担当する副校長が自ら作成し、授業評価を行っていた（付表１）。その評価をもとに４段階の給与水準に査定しているとのことであった。

3）国立サハリン総合大学教育学部

Korsunov副学長および教育学部長であるM.A. Romanova准教授、L.V. Shatunova教授、A.I. Savinkovモスクワ市立教員育成大学教授らと懇談し、教員養成について状況を窺った（図１F）．

初等中等普通教育学校の教員は、初等教育段階（１～４学年）を担当する初等教員、義務・中等教育段階（５～11学年）の専門教科を担当する中等教員、全教育段階を担当する音楽、美術、製図、体育、労働などの専科教員に分かれる。教員養成は主に教育大学で行われるが、初等教育と専科教員の養成は「教育カレッジ」など教育を専門とする中等専門学校でも行われている。

国立サハリン総合大学は、1949年に設立されたユジノサハリンスク教員養成大学に端を発する。この大学は２または３年制で、初等学校教員の養成にあたった。その後1954年に教育大学となり、1998年に総合大学となって現在にいたっている。学生の在籍数7,000名。その中、教育学部は通信（6年）の500名を含め1,080名である。この学部では初等教員および心理学、体育の教員を養成しており、他の（義務・中等の）教科の教員の養成は他学部で行っている。

ここでの教育実習は５年間で20週間行われるが、1年生は授業観察のみを行う。５年生には２カ月間の教育実習が課せられる。４年制の教育大学の

表３．ユジノサハリンスク市立第７番初等普通学校の教科毎授業時数（2009/10年度、週当たり）

教　　科	学年別週授業時数				
	1	2	3	4	5
ロシア語	5	6	5	5	21
文学読本（文学的読み方）	4	5	4	4	17
外国語（英語）		2	2	2	6
数学	4	5	5	5	19
まわりの世界（人間、自然、社会）	2	2	2	2	8
音楽	1	1	1	1	4
造形芸術	1	1	1	1	4
労働	1	1	2	2	6
情報			1	1	2
体育	2	2	2	2	8
合　　計	20	25	25	25	95

場合は、２～４年の各学年で行われ、３・４年でそれぞれ２カ月以上課せられるのが一般である。実習生の評価は実習先の教員が行うが、評価表はなく、実習生の記録簿を見て指導教員が行う。教員の持つべき資質として最も大切なものとして教科の指導力の育成に力を入れている。

教員資格は国家試験および論文によって与えられる。初等教員は全教科を教えることができる（ギムナジウムでは教科毎になっているが）。初等学校コースの卒業生の60％が初等教員になり、残りは大学院か他大学へ進学する。初等教員になる者の99％が女子学生である。Romanova学部長の数学教育法の講義を参観したが、受講生38名全員が女子学生であった。質問によく答え積極的に授業に参加している学生が多いように見えたが、居眠りしたり内職をしたりしている学生も僅かだがいた。小学３・４年生対象の加減乗除の指導法についての授業内容であったが、学部長は指導にあたる際の大切なこととして、論理、様々な角度からの質問、様々な解決方法を考えさせること、子どもに自力で考えさせること、自力でする問題解決への支援を強調していた。

４）ユジノサハリンスク市の教育行政

ユジノサハリンスク市には31の学校があり、うち２校は夜間、その他一般である。28の学校に初等教育段階が併設されている。安全、生活活動の基礎、正しい食事、危機管理に力をいれている。全学校に医務室があり、看護士が常駐しており、80％の学校に歯科医がいる。ギムナジウムには健康教育の教員も配置している。

教員数は幼稚園を含めると2000人ほどになる。サハリンでは最近油田関係の求人が増えているため教員の志願者は少ない。毎年25人の新任がいるが、一年後に半数はやめている。ただし市では他分野から回ってくるので教員の欠員はない。

ロシア連邦の教員には定年はなく、教員の資格は終身保障されている。年金は55歳（サハリンでは50歳）から受給できる。現職教員でもこの年齢になりさえすれば受給できる。給与は全学校に共通の基準があり、教育部で校長を集め合議によって教員の昇給などの決定を行う。週18時間（1時間は45分）の授業時数を基準とし、それ以上36時間まで担当した授業時数に応じて加給される。また、学校とは無関係に家庭教師を副業にしている教員もいる。複数の学校を掛け持ちすることも可能である。

校長は給与が高いが、12時間までは授業をしてもよい。しなくてもよいが現在は50％の校長がしている。校長の任命権は所轄の教育行政機関の長にある。ユジノサハリンスク市の場合、行政教育部長が、主として①副校長の経験、②校長講習会、③教員としての活動の評価の基準に則り行う。校長の任期はないが、解職になることはあるという。

５）教員の評価と研修

①　日常的な教員評価

学校では各教員がたてた年間計画の達成状況を評

価する。授業ごとに教員が自己評価を行い、さらに授業見学の権限のある副校長が授業を見学し、プーシキン記念人文科学ギムナジウム初等学校で見たような様式（付表１）の評価シートを用いて授業ごとに評価を行う。また、各教育段階の最終学年、すなわち初等教育では4学年終了時に市の統一テストが行われる。

② 学校評価における教員評価

学校設置者は公費補助等を得るため、５年に一度は連邦構成主体の各種審査に基づいた国家認定を受けることが、ロシア連邦教育法で義務づけられている。各学校からの申請により、連邦構成主体は教育水準、教育課程、管理運営体制、教員、教育条件等について当該校を評価し、不十分な点があれば改善を勧告する。勧告された学校は一年以内に改善して再審査を受けなければならない。改善が認められないと国家認定を取り消されることがある。

この評価の一環として教員の教育がロシア連邦の学校教育の水準に達しているか否かが評価される。その評価のために連邦構成主体から当該校に審査員が派遣され、1ヵ月から半年間教員の授業観察が行われる。また、初等教育最終学年（4学年）や義務教育最終学年（9学年）、初等中等普通教育最終学年（11学年）から無作為に抽出した児童・生徒に教科試験を行う。一定の成績に達する児童・生徒が50％以下であったような場合、教員の指導法や資質能力に問題があるとして学校に改善勧告が出される。

この教員評価は当該校に対するものであり、個々の教員の処遇に直接反映されるわけではない。しかし児童・生徒の成績等は学校改善のための資料として校長に示される。そのため校長は問題が指摘された教員に対して教授法等について指導・助言を行い、必要に応じてさまざまな研修を受けるよう、時には再教育を受けるよう促すことになる（高瀬, 2007）。また、学校予算の一部は学校の裁量なので、校長は優秀教員への加給や「指導力不足教員」に対する指導などができる。さらに、校長の評価で昇格・降格等の校内人事が実施される。校長は教員を選考することもできる。

③ 上位資格取得のための教員評価

優秀教員には、給与や労働条件について厚遇が得られる「二級教員」「一級教員」「上級教員」と３階級からなる上位資格が得られる。これによって教員の待遇は上位資格を持たないものから４段階に区分されることになる。上位資格はそれぞれの階級の資格審査に合格することによって与えられるもので、５年間の期限がある。この期限内であれば、別の学校に勤務することになっても、給与や労働条件の厚遇は継続される。ユジノサハリンスク市のギムナジウムの場合70％の教員が、一般の学校でも30～60％の教員が上級教員である。35歳でも上級教員資格をとる教員がいるという。資格審査は、教員本人の自由意思による申請に基づいて、それぞれ学校、地方自治体及び連邦構成主体が設置する資格審査委員会によって行われる。資格審査委員会は、ユジノサハリンスク市など地方自治体が設置する学校に勤務する教員の場合、二級教員については申請教員の勤務校によって、一級教員についてはユジノサハリンスク市など地方自治体によって、上級教員については同市が属する連邦構成主体サハリン州によってそれぞれ設置される。その構成は、設置主体ごとに決められるが、一般的には、申請教員の勤務校の校長や同僚教員、教員組合や教授法研究を行う教員グループの代表者のほか、当該地域の教育行政機関や学術研究団体の代表者等からなる。

資格審査委員会は、申請教員の教育成果（担当している子ども達のコンクール優勝などの成績や、成績優秀者の比率なども含む）、特色ある教育方法の導入状況、教育学・心理学に関する専門知識、保護者との関係などを総合的に検討し、必要に応じて、審査委員会による申請教員の授業観察や面接などを実施する（高瀬, 2003; 2007）。

試験は、自己申請であるが、校長は推薦文を書く。申請は毎年6月30日まで、10月1日から4月1日の間に試験が行われる。

なお、上位資格の審査に際しては、次に述べる研修を72時間以上受けることが一般的となっている。したがって上位資格を取得し続けようとする教員は、自らの継続的な資質の向上を証明するため、少なくとも５年に１度は研修を受けることになる（高瀬, 2007）。

④　教員研修

教員研修は、ロシア連邦の教員資質向上大学や教員研修コースを設けた教育大学等で１～２週間程度行われる。研修内容は、おおよそ「教育法規」「教育心理学」「教育実践（教育方法）」の３領域に分けられ、それぞれ72時間（1時間は45分）を単位とした様々なテーマの研修プログラムが設けられている。どの機関でどのような研修を受けるかは、教員が自由に選択できる。研修のための費用は、教員の資質向上に直接の責任を有する連邦構成主体の負担であり、国公立の研修機関や教育大学等が提供するものについては無償が原則である（高瀬, 2003）。

謝　辞

今回のサハリンでの学校調査がスムーズに運ぶよう細心のアレンジをして下さったサハリン国立大学総合大学のV.I. Korsunov副学長、教員養成についての質問に答えて下さったM.A. Romanova教育学部長、L.V. Shatunov教育学教授、ユジノサハリンスクの教育行政について解説して下さった同市行政教育部V.N. Beloglazova副部長に感謝申し上げます。また授業参観はじめ学校の視察をお許し下さり、学校の状況や教員・授業評価等について答えにくい質問に答えて下さったユジノサハリンスク市第7番初等普通学校のE.A. Fyodorova校長およびM.M. Nikitina副校長、プーシキン記念人文科学ギムナジウムL.N. Rumyantseva副校長、授業を参観させていただいたユジノサハリンスク市第7番初等普通学校のE.Y. Budylyova（4年情報）、N. V. Lazovaya（1年数学）、G.I. Sinyavskaya（4年ロシア語）、V.D. Anjela（3年音楽）、A.A. Voronejtseva（3年英語）、I.P. Zinatulina（2年造形芸術）の各教諭、プーシキン記念人文科学ギムナジウムのN.A. Betskova（1年ロシア語担当）およびN.V. Burshina（4年数学担当）の両教諭、これら全ての先生方に深く感謝いたします。そして何よりも、この調査に同行されて通訳の労を摂って下さり、また帰国後この報告をまとめる過程で生じた疑問の解決を助けて下さったAnna Ignatochkinaさんに深く感謝いたします。

参考文献

小林稔・岩政輝男・中村透・他. 2009. 平成20年度質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）報告書「模擬学校による教育実践力向上モデルの開発」, 228 pp. 琉球大学.

小林稔・中村透（編). 2011. 質の高い大學教育推進プログラム（教育GP）「模擬学校（プラクティススクール）による教育実践力向上モデルの開発」平成21・22年度報告書, 312 pp. 琉球大学.

琉球大学教育学部試行実施部会（編）, 2009. 諸外国における教職課程及び教育実習等の確認指標（スタンダード）と評価規準（ルーブリック）集, 琉球大学教育学部試行実施部会, 49 pp.

澤野由紀子, 2006a. 低学年「文学的読み方」1. 全体像. ロシアの教科書制度と特色ある教科の教科書, p. 31-35, 教科書研究センター, 東京.

澤野由紀子, 2006b. 翻訳資料「初等教育スタンダード」および「模範プログラム」ロシア語を教授言語とする学校用文学的読み方. ロシアの教科書制度と特色ある教科の教科書, p. 111-118, 教科書研究センター, 東京.

澤野由紀子, 2006c. 多様化と格差拡大が進む学校ロシア. 二宮皓（編著）、世界の学校－教区制度から日常の学校風景まで－, p. 66-77, 学事出版, 東京.

高瀬淳, 2003. ロシア連邦における教員人事評価制度の基本構造とその特色. 藤女子大学紀要, (41-Ⅱ): 1-13.

高瀬淳, 2007. ロシア連邦における教員評価. 大桃敏行ら（編）、教育改革の国際比較, p. 164-178, ミネルヴァ書房, 京都.

付表１．健康科学理論による授業の分析（L. N. ルミャンツエーヴァ作成）

参観日　“　“　　200　年

学年

名簿上の学生数　　人　　出席　　人

教師名

授業のテーマ

授業の目標

No p.p.	授業への要求	理にかなったレベル 2点	不完全に理にかなったレベル 1点	理にかなっていないレベル 0点
1	教室（クラス）の衛生状況: 室温，空気の新鮮さ，教室や黒板の照明，騒音の存在，児童の身の丈にあった家具など			
2	教育活動の質: 児童へ質問する，書く，読む，聞く，話す，質問に答える，例題を解く，問題を解く，など			
3	それぞれの教育活動の平均継続時間			
4	教授項目の量: 口頭，視聴覚，ペア及びグループ活動，自律学習など			
5	教授項目の入れ替わりの頻度: 1年生: 7分，2・3年生: 7-10分，4年生: 10-15分			
6	健康維持の方法（自主性や児童の創造的な自己表現力の活性化を促進する方法，活動のアプローチの方法）: A) 積極的な方法（グループ活動，ロールプレイ，ディスカッション，調査など）			
	B) 自己認識と発達へ方向づけられた方法（自己評価と自己管理）			
7	授業における児童の活動にたいする動機付けの存在: A) 外発的動機付け（コメント，呼びかけ，支援など）			
	B) 内発的動機付けへの刺激（教材，知識への興味，困難を克服する意志の力）			
8	授業における心理学的環境: A) 教師と児童の相互関係（快適－緊張，協力－権威主義，個別的－一斉の，年齢による特性への配慮）			
	B) 児童とクラスメイトの相互関係（協力－競争相手，友情－反目，関心－無関心，積極性－消極性）			
9	感情の緊張緩和の存在（微笑み，冗談，ユーモアのあるまたは教訓的な絵，音楽の時間，大きくない詩など）			

10	教授のための機器の使用の場所と継続時間。1・2年生: 10-15分，3・4年生: 15分			
11	授業における健康増進法の存在: A）活動の種類に応じた姿勢の交代: 教師が児童の姿勢を監視している			
	B) 1分間体操（動き，休止） ノルマ: 10-15分の間に。1分ずつ，それぞれの3-4回繰り返される3つの軽い運動から			
	C）リラックスの時間: 呼吸体操，目の体操，活性点のマッサージ			
	D）疲労がやってくる瞬間（学習活動の低下）1年生: 25-30分以内			
	子供と健康的ライフスタイルとの公的関係（授業の充実した部分における健康や健康的ライフスタイルと関連付けられた質問の存在）			
13	授業の成果 A) 活動の反省（児童による授業の結果の認識）			
	B) 宿題（再生的なものまたは創造的なもの，解説）			
14	授業の濃密さ（学習活動において児童によって消費される時間の量） ノルマ: 60％以上80％以下			

帰結―判断: 最高42点（85%以上: とても効果的なレベル，65-84%: 効果的，45-64%: 及第，45%以下: 効果的ではない）

注: 授業においてもっとも輝いた瞬間が健康的ライフスタイルに方向づけられている（授業内部の施策が児童の精神的，肉体的健康の分野における診断，予防，矯正に向けられている。）

児童の積極性や自主性の度合い（見取り図）

第１列	第２列	第３列